

中央大学工学部数学教室

概要：1963年に駿河台にあった工学部の4学科（土木工学科，電気工学科，精密機械工学科，工業化学科）に数学科，物理科，管理工学科を増設し，現在の後楽園に理工学部として発足しました．

現在は電気工学科は電気電子通信工学科，工業化学科は応用化学科，管理工学科は経営システム工学科の様に名を変え，10年前より，情報工学科が加わっています．

学部数学科：定員は，発足当時40名でしたが，臨時定員増のときに70名となりました．臨定の見直し後も70名のままです．スタッフは15名でスタートしましたが，当時の文科省の大綱化のときに1名減らされて現在は14名です．スタッフの人数からわかりますように，他学科の微分積分学と線形代数学および教職課程の科目を担当しています．解析概論（微分方程式，関数論等）の担当者は各学科に配属され，数学科では面倒をみないことになっていることを付記しておきます．1980年位までは中学校の教員を多く輩出し，1980年以降は高校の教員の方がむしろ多く輩出されているかと思えます．入試は一般入試の他に指定校推薦，自己推薦などの特別入試を行って少しでも啓発したいと努力しています．15年程前から文科省の私学助成のおかげで計算機室が充実するようになりました．数学科には現在100台程のワークステーションが備わっています．就職については教職関係以外に，計算機室が充実しているからというわけではないと思いますが，発足当時から多くはメーカーの情報系，金融の情報系および情報系そのものなどの職種に就いています．

大学院数学専攻：1991年に大学院の修士課程が定員10名で発足し，3年後に博士課程が定員3名で発足しました．2003年から修士の定員は25名となりました．博士の定員は変わっていません．大学院が出来る前まで他大学の大学院に行って大学の先生になったのは10名程度いました．大学院が出来てから，1期生の3名のあと，私の記憶では2名しか大学の先生になっていません．修士はもちろん，博士学位を取得する学生は多くいるのですが研究職や教育・研究職に就く人は少なく残念な状況です．

研究状況：毎年度，学事記録への論文，口頭発表等の書き込みが求められています．1988年からプレプリントシリーズが創られ，2000年から Tokyo Journal of mathematics の編集に加わっております．14名の内，12名が大学院の担当教員なので国際的レベルにあると考えられます．情報関連の C.O.E. に4名の先生が加わっています．また，経済学部の環境関連の現代 G.P. に加わっている先生もいます．ご存知の方も多いかと思いますが，Encounter with Mathematics が1996年から毎年3，4回開催されています．

（文責：松山善男）